

# コロナ中等症病院 パンク寸前

救急搬送数トップクラス 湘南鎌倉総合病院

## 「次の受け入れ先」調整難航

年間1万4千台と国内トップクラスの救急車を受け入れる湘南鎌倉総合病院（神奈川県鎌倉市）。新型コロナウイルス感染症の患者を多く受けながら「救急患者を断らない」をモットーにする。だが感染の拡大が続き、その状況にも限界が見え始めた。

「高齢者施設に入所する新型コロナ陽性の70代後半女性、呼吸不全」「自宅療養、陽性の60代後半男性で透析患者が発熱」

1月13日。ER（救急外来）の救急調整室では、電話対応に救急救命士が追われていた。

病院近くには昨年5月、神奈川県が開設し、運営を委託された中等症の新型コロナ患者向けの臨時医療施設の仮設病棟がある。最大180人が入院でき、100人前後が入る。病院の医師・看護師90人が対応し、これまでに950人以上の入院を受けた。計算上はさらに80人の入院が可能だが、「高齢者や精神疾患のある患者が多く、医師や看護師を増やすないと、これ以上の対応は難しい」。

600床（ベッド）のうち61



ERには、新型コロナ以外の救急患者も次々に運ばれる（神奈川県鎌倉市）

床を空け、その分の看護師らを新型コロナ向けの仮設病棟にあてている。スタッフの募集も続けるが、それでも人材は足りないという。

県が昨年4月に導入した「神奈川モデル」は、酸素吸入などが必要な中等症の患者を受ける「重点医療機関」を指定し、患者を集約する。湘

路結石、誤嚥性肺炎……。「今は国難。長く続く災害のようなもの。現状の権限でドがパンクしないよう、ERで診断をつけた後、転院可能と判断した場合は、近隣の病院や高齢者施設で受けてもうよう交渉する。

12日には救急救命士らの調整の結果、17人を他施設に受けもどった。湘南鎌倉の強みは、ほかが受けない救急患者も受け、症状が安定した患者を周囲の医療機関に受け入れてもらってきた。パイプがあことだ。だが感染者は急増し、クラスター（感染者集

団）が起きた施設もある。やりとりにこれまで以上の時間かかるようになっていた。

**（編集委員・辻外記子）**

南鎌倉総合病院もその一つ。重症化すれば重症者を診る高度医療機関に移す。患者受け入れや搬送の調整は、県の調整部が担う。

だが重点医療機関の入院搬送受け入れ枠は減り、県による搬送調整は困難さを増した。湘南鎌倉総合病院には5日から、自宅や高齢者施設で療養する新型コロナ患者が悪化したので入院をと打診されることが増えた。

一方、新型コロナ以外の救急患者もくる。骨盤骨折、尿路結石、誤嚥性肺炎……。

「次の大波がきて、さらなる周囲の協力が得られない」と山上浩・救命救急センター長（42）は不安を抱く。

「今は国難。長く続く災害のようなもの。現状の権限で受け入れが増えたことやクラスターの発生を理由に、一般診療を制限する施設も増加。救急搬送全般に影響はおよび、搬送に時間がかかる事例が増えている。

### 自宅療養者急増

1カ月で4倍弱

重症化すれば重症者を診る高度医療機関に移す。患者受け入れや搬送の調整は、県の調整部が担う。

だが重点医療機関の入院搬送受け入れ枠は減り、県による搬送調整は困難さを増した。湘南鎌倉総合病院には5日から、自宅や高齢者施設で療養する新型コロナ患者が悪化したので入院をと打診されることが増えた。

一方、新型コロナ以外の救急患者もくる。骨盤骨折、尿路結石、誤嚥性肺炎……。

「今は国難。長く続く災害のようなもの。現状の権限で受け入れが増えたことやクラスターの発生を理由に、一般診療を制限する施設も増加。救急搬送全般に影響はおよび、搬送に時間がかかる事例が増えている。

一方、新型コロナ患者の受け入れが増えたことやクラスターの発生を理由に、一般診療を制限する施設も増加。救急搬送全般に影響はおよび、搬送に時間がかかる事例が増えている。